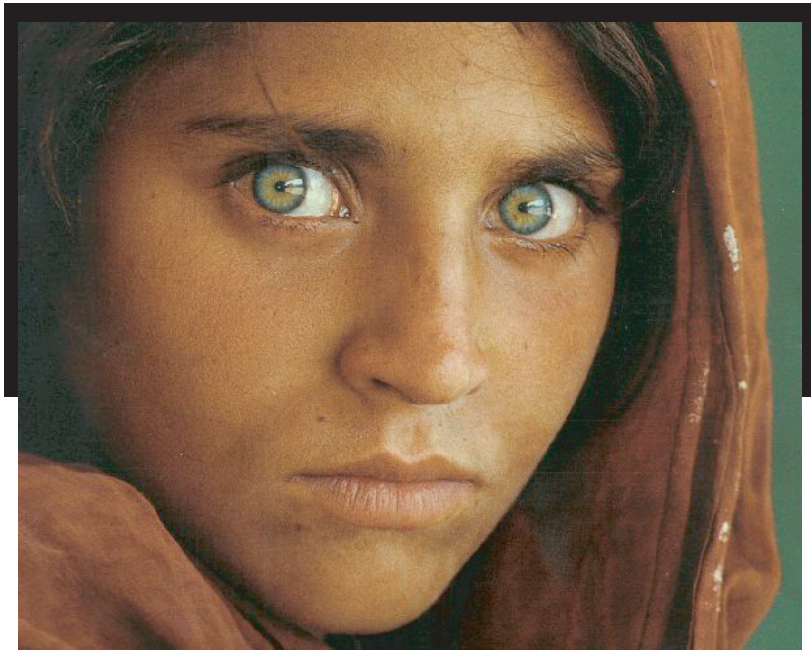

空爆やめて！

Stop Bombing Afghanistan

アフガニスタン空爆開始から7周年

多国籍軍による空爆は今も続いています

２００１年10月7日、アメリカは「9・11同時テロ事件の犯人はアルカイダのオサマ・ビン・ラディンだ」と断定し、アフガニスタンのタリバン政権は彼をかくまっているとして大規模な空爆を開始しました。タリバン政権は崩壊しましたが、その後も米軍を中心とする多国籍軍による「対テロ戦争」は続けられ、女性や子どもたちを含むたくさんの一般市民が犠牲となっています。

軍事力では「テロ」はなくせない

米軍が8月22日、アフガン西部で行った「タリバン掃討」作戦では、民間人約90人が空爆で死亡しました。国連の現地調査によれば、そのうち子どもが60人、女性が15人だったといいます。こうした無差別攻撃は、人々の憎しみと反米感情を強め、米軍と戦うタリバンの勢力拡大につながっています。タリバンの活動地域は、全土の7割以上に広がっているともいわれています。民間人も巻き込む「自爆テロ」も増加しています。アフガンの現実は、軍事力では「テロ」をなくせないことを証明しています。

日本ができることは何だろう?

インド洋での給油は戦争加担

現在日本政府は、自衛隊をインド洋に派遣し、米軍などの艦船に洋上補給活動を行っています。つまり、日本は給油活動を通じて、アフガンへの攻撃と民間人の犠牲に加担しているのです。

日本は軍事力ではない貢献を!

現在アフガニスタンで深刻なのは、干ばつによる食料不足で、これから厳しい冬を迎えるにあたって、数百万人が餓死の危機にさらされているといわれています。こうした問題を解決することも、「テロ」をなくし治安を安定させる上でも重要です。このような支援は、自衛隊ではなく、NGOのような「中立」の立場から行うことが大事です。

日本平和委員会 http://j-peace.com info@j-peace.org